

令和5年度 比治山大学短期大学部附属幼稚園 学校評価の実施

比治山大学短期大学部附属幼稚園(以下、本園)では、令和5年度、教育の質保証やより良い学校運営のための改善を目指し、「文部科学省 幼稚園における学校評価ガイドライン」(平成20年3月24日)に基づいて、つぎのような学校評価を実施した。

【自己評価】 令和5年5月

自己点検評価書作成(園長、副園長、教諭7名 計9名)

・園長のリーダーシップのもと、幼稚園教職員が設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さについて評価を行った。

【学校関係者評価】 令和5年6月8日(木) 令和5年12月18日(月) 令和6年3月4日(月)

(保護者会会長、元園長等関係者6名及び園長、副園長 計8名)

・保護者、地域住民などにより構成された委員会が教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価した。

【第三者評価】 令和5年12月25日(月)

(学外有識者4名、及び園長、副園長 計6名)

・令和5年度は、資料評価を実施した。12月上旬に令和5年度の幼稚園運営、教育活動等13項目の観点に伴う資料を配付した。その後、幼稚園運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己点検や学校関係者評価の実施状況を踏まえつつ、教育活動や学校運営の状況について専門的視点からの評価を受けた。

【評価】 A : 11月中旬～下旬のアンケートの実施

ア 保護者へ中間アンケート(教育活動について・預かり保育について)の実施

↓

B : 12月上旬、第三者委員の方々に資料を配付

イ 第三者評価委員の方々へアンケートの実施(評価)締め切り12月25日

↓

C : 3月上旬のアンケートの実施

ウ 学校関係者評価委員の方々へアンケートの実施

エ 重点目標「自然に親しみ豊かな感性を育てる」の自己評価

アンケート・評価の結果については、別紙ア、イ、ウ、エを参照

【総評】

令和5年度は、コロナ禍が明けて、いろいろな行事を実施することができた。保護者は、行事の参加を通して子どもたちの成長を感じる機会が多かった。その為、教育活動についてのアンケートでは、大変高い評価を得ることができた。学校評価委員の方々、第三者委員の方々からの、観点別評価に於いても概ね良い評価が得られた。教職員が一丸となり子どもたち一人ひとりに寄り添い丁寧

な教育を心掛けた成果とを感じる。また、今年度は本園のICT化に力を入れて取り組んだ。インスタグラムやブログ、在園児ログインページで配信されたドキュメンテーションで、子どもたちの日常の様子をタイムリーに配信したことは、保護者からも好評であった。ICT化等時代の流れに沿って流行の波に乗ることも大切だが、本園が求めている幼児教育の本質は変えることなく今後も運営していきたい。

今年度も昨年度に引き続き、比治山大学・比治山大学短期大学部との連携事業を活発に行った。中でも1月に行った短期大学部美術科、幼児教育科と連携した大学2号館解体前の「らくがきイベント」では、子どもたちが2号館の壁面や床に感謝の気持ちを込めてのびのびと絵を描く姿が、とても「いきいき、のびのび」しており連携活動としては大変印象的だった。

昨年に引き続き留学生との異文化交流会も実施したが、昨年度の反省を生かし、今年度は大学の関係者と早目の打ち合わせを行い、年間で4回の交流会を実施することができた。交流会の実施は、作品展にも影響を与え、年長組が「ベトナムのランタン祭りと日本の秋祭り」を展示し、一層文化の違いを学べる機会となった。

ICT化に於いては、軌道にのってきたが、教員の負担も多いため、配信内容の整理、精査を行い、令和6年度は、広報活動に力を入れ新入園児の獲得に努めていきたい。また、保護者のニーズに応えるということで、令和5年度後半より放課後の課外活動として「将棋教室」を行った。子どもたちの興味関心も強く、参加された親子には大変好評であった。次年度は、課外活動として「将棋教室」「英語教室」「運動遊び教室」の実施に取り組むこととした。子育ての支援としては、希望者へ毎日の外注弁当の提供、預かり保育の時間延長（最長19時まで）を実施する。

令和5年度の点検・評価の結果については、園児の保護者にも公表し、本園の取り組みに対する一層の理解と協力を得たい。さらに、今後も継続的に内部、外部での点検を実施し、改善に努め、より良い教育を提供する幼稚園を目指す。

(比治山大学短期大学部附属幼稚園 園長 羽地 波奈美)